月刊[里親だより]第３６号

２０１１年５月２８日（月）発行（財）全国里親会
☎　03-3404-2024　　FAX 03-3404-2034
http://www.zensato.or.jp/　E-mail：info@zensato.or.jp
メーリンググループ　zenkokusatooyakai@yahoogroups.jp

連休も土日もなかった５月でしたが、此のところ漸く、里親制度に関する電話が少なくなり、メールにも返事の必要が無くなり、事務局では一段落といったところですが、現地では、まだまだそれどころではないことでしょう。

■　震災孤児が１８４人に

報道では、震災孤児は、岩手県８２人、宮城県８４人、福島県１８人合計１８４人になったということです。

岩手日報（５月２８日付）によると、震災孤児は、宮古児相管内では５１人、一関児相は３１人となったが、津波の被害が大きかった陸前高田市等の調査が進んだためであり、８２人のうち６０名余りが小中学生で、子どもたちは親戚の家庭で暮らしており、児相では、親族里親への申請を進めているということです。

■　「大震災子ども救援基金」は２５００万円に

多くの方々の御厚意が、お陰様で２，５００万円を超えました。海外からも２００ドル、３００ドルの送金があり、個人でも１００万円、５０万円の募金もいただきました。本当に頭が下がります。多くの里親さんからの御協力もありましたし、募金を取りまとめていただいた里親会もあります。有難うございました。今後様子を見ながら支援策を検討していきますが、差し当たり、次について実施することとしております。

・ご両親を亡くされた子どもたちに一人７万円を支援

多くの個人の方や団体から、また、チャリティで集めた資金をお寄せいただきました。

全国里親会では、このご厚意をどのように使わせていただくか、検討してまいりましたが、被災から３カ月になろうとしていますが、親族里親も進んでいないため、震災孤児１人当たり７万円の支援をすることにいたしました。

支援金は、単に対象の方に送金するということだけではなく、児相の担当者にお願いし、また、各県の臨床心理士会のご協力をいただいて、里親会の関係者が、里親制度を説明し、子どもの置かれている状況を把握するために、支援金を手渡しすることとしております。

・「子どもの心のケア」講習会の開催について

災害を受けた子どもたちへの対応は、里親だけではなく一般家庭の養育者にとってもその基礎的な知識を持つことが重要です。

全国里親会では、里親と一般家庭の親を対象に、被災地のできるだけ多くの地域で、子どもたちへの対応などの心構え等基本的な知識についての講習会を実施して行きたいと思っています。

なお、『社会的養護における災害時「子どものこころのケア」手引き（里親養育のために）を子どもの村福岡と共同発行し、講習会で使用するとともに、全国の里親会にも配布することとしております。

■　東北及び関東甲信越・静ブロック研修会を中止

7 月 23・24 日に、山形県上山市で予定していた東北地区研修会と 7 月 17･18 日に千葉市で開催を予定していた　関東甲信越・静は、東日本大震災のため中止になりました。

■　平成 22 年度　会員の加入状況

平成２２年度の会員の加入状況は、次のとおりでした。

区　分	会員数	会費納入額
団体会員	61 団体 (4, 502 人)	4, 502 千円
個人会員	1, 163 人	3, 489 千円
施設会員	17 施設	170 千円
賛助会員	135 人	483 千円
計		8, 644 千円

全国里親会の運営は、会費収入で成り立っておりますが、個人会員の入会が少なく、養育里親の 50%が未加入の状況です。

「会費」のあり方については、役員会や評議員会でも議論されており、次の案について、今年度中に検討・結論を出すことになっております。

《検討案》

① 団体会費を２，０００円とし、個人会費を１，０００円にする。

② 個人会員を無くし、団体会費を各団体会員１人当たり３，０００円とする。ただし、１団体の会費の上限額は５００千円とする。

会費に関してのご意見がありましたら、事務局にお寄せ下さい。

■　「育てノート」を作成

社会的養護における「育ち」「育て」を考える研究会では、「育てノート」を作成し、子どもの養育記録や生活記録が措置変更によって途切れることがないよう、子どものライフストーリーが１冊に記録できるようにしたものです。

同研究会では、今後現場で活用しながら内容についても検討し、改訂版を出すこととしております。

このノートは、９３頁になり、国立武蔵野学院のホームページからダウンロードすることができます。